



平成 28 年 6 月 29 日

各 位

上場会社名 株式会社 小島鐵工所
代表者 代表取締役社長 児玉 正蔵
(コード番号 6112)
問合せ責任者 取締役執行役員経理部長 田中 教司
(TEL 027-343-1511)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 28 年 1 月 12 日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

●業績予想の修正について

平成 28 年 11 月期第 2 四半期(累計)個別業績予想数値の修正 (平成 27 年 12 月 1 日～平成 28 年 5 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期利益	1 株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	800	1	4	2	0.20
今回発表予想 (B)	868	△49	△40	△41	△4.10
増減額 (B-A)	68	△50	△44	△43	—
増減率 (%)	8.5	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 27 年 11 月期第 2 四半期)	844	△135	△122	△123	△12.34

修正の理由

当社の主製品である大型油圧プレス機は、形状、能力、機能のほか、納期、一台当たりの金額もそれぞれ異なる個別受注生産でありますので、月単位での売上は一定しておらず、季節の変動によるものでもなく、納期的、金額的なバラツキにより売上の変動が大きく、また、当社製品が大型機械ゆえ、設計・生産着手から納品・据付まで平均して 1 年程度を要するため、受注から売上計上まで相当期間のズレが生じてしまうのが当社事業の特性であります。

このような事業の特性を持つ当社におきまして、売上計上につきましては、一部工事進行基準を適用しておりますが、当 116 期第 2 四半期累計期間における売上高につきましては、受注残の消化が順調に推移したこと等で、前回予想数値 (8 億円) 及び前年同期 (8 億 44 百万円) を若干ながら上回る 8 億 68 百万円を計上できる見込みであります。

利益面につきましては、受注物件の一部につき、当初予想原価を上回る 20 百万円の発生及び固定費全般の膨らみ等の増加がありましたが、生産面の効率化の結果、前年同期純損失 (1 億 23 百万円) 大きく改善できる状況にまで回復でき四半期純損失は 41 百万円の見込みであります。しかしながら、前回発表予想数値 2 百万円には及ばず、減額修正するものであります。

なお、受注状況につきましては、当第 2 四半期累計期間の受注高は、一定の引き合いはあるものの、景況感の悪化から、国内外の顧客の発注サイクルが遅れ気味傾向にあり、想定通りの受注額が得られず、前年同期 (10 億 54 百万円) を下回る 4 億 42 百万円の受注に止まり、受注残高につきましても、前年同期末 (15 億 37 百万円) から半減の 7 億 21 百万円へと減少しております。現在、国内外の鍛造・製鉄業界を中心に引き合いが浮上している大型案件の成約に向け全力で取組んでおり、一層の受注増加を目指しているところでございます。

平成 28 年 11 月期通期個別業績予想につきましては、先行き不透明感の中にあります。現在、優良な大型・中型物件と折衝中であり、今後においても好採算物件の引き合いが見込まれていることから、売上高・営業利益・経常利益・当

期純利益に関しましては前回発表の予想通りで推移できる見込みであります。

※上記予想は、現時点に於いて、入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって、予想数値と異なる結果になる可能性があります。

以 上